

令和7年度第2回岐阜県プラスチック資源循環推進懇談会【議事要旨】

- 1 日 時 令和8年2月19日（木）10：00～11：00
- 2 場 所 OKBふれあい会議室 402会議室
- 3 出席者
田中委員、酒井委員、奥村委員、デュアー委員、宮田委員
山口（東海学院大学2年）、佐藤（東海学院大学2年）
- 4 欠席者
なし
- 5 事務局
安藤廃棄物対策課長、牛島資源循環推進監、
中井課長補佐兼資源循環推進係長、宮原主任
- 6 会議の概要（あいさつ、資料説明、意見交換）
- 7 主な意見等

○令和7年度における取組について

【委員】

- ・特別授業は話したいことが多すぎて時間切れになることが多いが、今回はなるべくコンパクトに、質問を投げかけてキャッチボールをする時間をたくさん設けた。わかりやすくコミュニケーションができたかなという印象を受けたので、また今後も機会があれば同様に続けていきたい。

【委員】

- ・動画を4月からぎふ環境学習ポータルサイトに掲載ということだが、完成したものを我々も見ることにはできるのか。

【事務局】

- ・この後、各社にはそれぞれの動画がどんな形になったのか、このまま掲載してよいかという最終確認をしていただく。

【委員】

- ・お弁当の容器に関する取組は素晴らしいと思う。最初バイオプラスチックマークの案がペットボトルだったので、「ん？」思ったが、うまく加工していただいた。食品容器やトレイ、ドリンクカップみたいなデザインにしてもらえてありがたかった。また、マックスバリュ東海からも問い合わせが来て、こういう

ふうに動かれているのかと間接的に知ったので、こんなふうに取り組が広がっていくといいと思った。

- ・ 学生からの質問を受け、興味の具合が増している印象を持っていて、私自身も講義をして、「ポリ乳酸って海洋でも溶けるんですか、分解するんですか」聞かれ、残念ながら分解しないため答えに窮するところもあり、非常に関連が高いと感じた。ぜひ継続していきたいなと思った。
- ・ J B P A（一般社団法人日本バイオプラスチック協会）が久しぶりにバイオプラスチックの調査をしたところ、残念ながらまだ日本には約14万トンしか普及していない状況で、全プラスチックの量が今900万トンぐらいなので、まだまだ本当に少ししかない状況。こういう活動をぜひ検討して、より皆さんに知っていただくことが大事かと思う。

【委員】

- ・ 県内の小中学生や教員が視聴する岐阜県環境学習ポータルサイトとはどういうものなのか。検索すれば誰でも見られるということか。

【事務局】

- ・ 小学校5年生を対象に配布している環境副読本を補完する形で、普通にインターネットの検索で出てくるサイトである。例えば、おうちでできる環境に関することだとか、県内の自然について紹介していたりとか、環境全般の複合サイト。

【事務局】

- ・ 岐阜県環境学習ポータルサイトという岐阜県庁のポータルサイトがあり、検索すれば出てきて誰でも見られる。いろんな環境分野が載っていて、お子様でも見られるやさしいものになっている。

【委員】

- ・ 小・中学校レベルの内容で、学習ページや動画が作られているものが多いということか。高校でも使えるものがあるかもしれないので持ち帰って紹介したいと思う。

【委員】

- ・ 本年度は学生によるインタビューや各種表彰など、1年間の成果を形にすることができた。特に「可視化」と「伝えること」の重要性を再認識している。実績面では、「みえるらべる」の可視化を行った「6代目生彩弁当」が3万食

を越え、今回の「バイオプラスチック」可視化の取り組みでも、閑散期の冬場でありながら前年比約 1.8 倍の売上を記録した。可視化は消費者の購買意欲に直結することが実証されたため、令和 8 年度以降も継続したい。サプライチェーン全体での環境配慮を消費者に身近に感じてもらえるよう、引き続き取り組みをお願いしたい。

○東海学院大学健康福祉部医療栄養学科における取組報告

【委員】

- ・すばらしい成果が出ていて感心したし、継続は力なりという姿を目の当たりにできてよかった。これはバイオプラスチックの普及ということだが、前回も触れたように、そもそもプラスチックの使用量は減らしていきましょう、リサイクル素材を使っていきましょう、構造的に工夫して使いましょうといったいろんなテーマがあるので、そういったところにも展開することができたら、また良くなるのではないかと思う。

【委員】

- ・今日ロゴマークを初めて見たが、最初ぱっと見たらなかなかかっこいいと思った。学生のデザインなのも素晴らしい。
- ・お弁当にシールが貼ってあっただけでもアンケートに 1 万 3,500 人ぐらいの方が回答され、しっかりと効果が出ているということで、非常にそういう意味では消費者の方々も環境について興味があると感じられてすごいと思った。
- ・購買動機にもあったように、環境に配慮したというところも、この場合はプラスチックの容器だけでなく、廃棄にんじんを使ったとか全体で意識をしたところが上手く伝わったのではないかと思うので、ぜひ継続した取組をしていただければ。

【委員】

- ・自社でもアンケートを定期的にやっているが、回答者数は 1,000 人がいいところなので、1 万人を超える対象者が答えてくれたのはすごいと思った。
- ・あと今後のお願いで、バイオマスプラスチックは基本的にカーボンニュートラルを狙った使い方が多いと思うが、最近話題なのは資源循環で、資源有効利用促進法が今度改正されて 4 月から施行となり、その中で車と家電と容器包装がリサイクルの義務化の対象になったので、バイオマスプラスチックもリサイクルできることを、ぜひアピールをしていただきたい。バイオマスプラスチックは、何かこう特別なものと認識されていることが多い印象だが、できる過程は違ってでもできたものとしてはプラスチックとしては一緒なので、プラスチック

をいかに循環させていくかを次のテーマにさせていただけるといいと感じた。

【委員】

- ・大変すばらしい発表で、高校生のレベルより一段階上の内容であった。お弁当の中身を工夫されていると思ったし、また、マークがわかりやすく大変に良いと感じた。多くの方にアンケートをとられていたようだが、どのように工夫されたのか。

【委員】

- ・お弁当にQRコードがついていて、スマホなどで回答する形ですが、高齢者の方も思いのほか回答していただけたと思う。

【委員】

- ・スマートフォンを利用するフォームズでの回答は、その場でやっていただいたのか。

【委員】

- ・いえ、その場でやっていただいた方もいるとは思いますが。

【委員】

- ・大学やマックスバリュ東海と共同制作した「資源循環のストーリー」を伝えるデジタルサイネージ動画を売場で放映した効果は大きく、アンケート回収率は一般的な基準を大幅に上回る57%に達した。QRコードによる回答方式ながら高齢層からも予想以上の反応が得られており、学生の戦略的な動画活用が幅広い消費者に響いた結果だと考えている。可視化が購買意欲に直結することを踏まえ、令和8年度以降もサプライチェーン全体で環境配慮型製品が身近になるよう、引き続き取り組みを推進したい。

○令和8年度における取組について

【委員】

- ・具体的にどんなもの展示するのかイメージが湧いていないところがあって、例えば先ほどの説明にあった、ペットボトルのキャップを入れるとペットボトルを利用した製品が出てくるといったものを、岐阜県で作っているもの、再利用したものを集めて展示するというイメージなのか。

【事務局】

- ・岐阜県内の企業さんだけに絞ると難しいところがあるかもしれないが、できるだけ中部圏で、資源循環をテーマとした製品を集めて、展示を行っていきたいと考えている。イメージしやすいのは鞆とか。

【事務局】

- ・基本、岐阜県内の企業が作るものを選びたいのが優先順位。例えば、市販化されている爪切りの、爪を切る刃物じゃないほうのプラスチックやごみ箱など、プラスチックを配合している製品で循環して回っているものを、若い世代、特に学生さんに見ていただくことでさらに浸透が深まればいいかなという思いで企画した。

【委員】

- ・そういった製品はしばらく前からあると思うが、まだまだ認証が足りない、もっと発信しないといけないというイメージでこれをやろうということか。

【事務局】

- ・昔は環境展とかいって、岐阜市や県でもかつて行われていたが、だんだんそれが尻すぼみになってやらなくなってきた部分もあって、実際にアクティブGの中にも、リサイクルの製品の展示をしていたときもありました。巻き返しではないが、やはり県民の方が具体的にこういう製品が環境にやさしい製品なんだと、改めて手に取ってわかっていただくような機会を、サーキュラーエコノミーに今後力入れていく中で、1つのツールとしてやっていこうということで、新たに始めたいという思いである。

【委員】

- ・こういったものはビジネスにはなっていて、例えば回収したペットボトルを使用した衣料品だとか大分浸透しているイメージで、ちょっとどうなのかなと思いましたが、よくわかりました。

【委員】

- ・見てもらうためにはやっぱり楽しい、「循環の楽しさを体感できる」と書いてあるが、そういった展示になるといいなと思う。先ほどのお弁当のデジタルサイネージではないが、そういう理解が進む機会として利用してもらうのは、それはそれでいいんじゃないかと思う。あまりお勉強にならない、楽しく、その辺りを腹落ちしていくのがこの取り組みに対してはいいのではないかと思う。

【委員】

- ・ 県内3ヶ所とは具体的にはどこをイメージしているのか。

【事務局】

- ・ 学園祭を予定しており、あとは県の農業フェスティバルでも展示というブースを設けて展示していきたいと考えている。

【事務局】

- ・ できれば現在の3ヶ所ぐらいの大学の学園祭でやりたいと思っているが、まだそこまでは調整はとれていない。他に皆さんが集うような、県だと農業フェスティバルとか非常に集客が多いので、そういった場所で展示をして、見て触って触れるような機会ができたらいいかなと思っている。

【委員】

- ・ 大学は学生が対象で、岐阜県の農業フェスティバルだと一般の方が対象。

【事務局】

- ・ ご認識のとおり。

【委員】

- ・ 我々は食品容器はもちろん、それ以外にも日用品・雑貨関係などいろいろやっているところで、その中で一番困っているのが一般消費者向けのリサイクル材の活用。いわゆる出口商品と言っているが、リサイクル材を集めることができるのだが、何に使うかということがすごく課題になっている。産業用途であれば相手先が企業なので、社会貢献も含めて使おうとしてくれる。相手が一般消費者になると、やっぱりリサイクルってイメージがいまいちよくないようで、新品とリサイクル商品があつたらどちらを買うかと言えば、何となく価格が同じであれば新品を買いたくなるのが心理だと思う。そういうこともあってなかなかリサイクル材を使った商品が一般の消費者に売れていけないので、非常にずっと我々も困っていて、そこを打開できるともっと循環するのでは、思ってきたので、一般消費者向けの商品を考えてらいいかなとイメージしながら話を聞いていた。

【事務局】

- ・やっぱりデザイン性が非常に大事で、リサイクル品であってもデザインが洗練されているものも、展示の中でご紹介していきたいと思っている。

【委員】

- ・もう一言言わせていただくと、我々、つい最近「サステイメイド」というブランドを立ち上げ、必ずグリーン購入法の対象にできるような再生材を混ぜたごみ箱といった一般消費者向けの商品を企画したので、実際に展示で見えただき評価を受けるのはすごく助かると思う。

【委員】

- ・展示については大学の学園祭を計画しているとのことだが、高校では、探究学習が非常に盛んに行われており、地域に関することや環境、SDGsに取り組んでいる学校も多い。今回の内容は、探究学習にも通ずるものがあると思った。生徒の主体性を育てるという意味でも、活動を通して生徒に自ら考えさせ、実践した内容についてアンケートをとり、そこから新たな課題を見つけていく取組は今後の、学習に繋がれると感じた。本校のような専門高校以外の普通高校や農業、商業、工業へも広げていくと、興味を持つ高校生はいるのではないかと感じた。今後、高校でも展示を計画していただきたい。企業と連携して取り組んでいる学校は多いので、ぜひ紹介していただけると良いと思った。

【委員】

- ・今後の展開としては、学園祭というより、ショッピングセンターなど「消費と直接つながる場所」を舞台に、楽しみながら製品を購入できる仕組みを目指すことも重要だと思います。具体的な手法として、例えば商業等、集客力の高い場で、単に製品を置くだけでなく「自ら直接PRしたい」という意欲ある企業を公募で募り、企業担当者自らが店頭で消費世代に直接訴えかけることで、今まで知られていなかった製品の魅力がより深く伝わると思います。

【委員】

- ・先生の言われた、企業というか一般消費者向けに、というのはすごくいい。いろんなお祭り、例えば各務原市の市民まつりとかでブースを立てて、簡単に設置できるように考えて実施してはどうかと、改めて思った。